

平成20年度女性研究者支援育成事業(文部科学省)
 熊本大学「学長を囲む女性研究者の意見交換会」アンケート

平成21年3月9日(月) 14:00~16:10
 特別講演 「女性研究者がもっと、ずっと輝くために」
 講師 北海道大学教授・副理事・女性研究者支援室長 有賀 早苗氏



講師 有賀先生

「学長を囲む女性研究者意見交換会」
 テーマ「熊本大学女性研究者ロールモデル誌を通して」～キャリアパスの力とは～



講演風景：北海道大学 有賀教授



学長を囲む女性研究者意見交換会

熊本大学くすの木会館レセプションルーム

参加人数 30
 アンケート集計数 15

1.あなたのプロフィールを教えてください。

男性	女性
0	15

20代	30代	40代	50代	60代
0	5	4	5	1

2. 本日の特別講演 有賀早苗教授の「女性研究者がもっと、ずっと輝くために」をお聞きになって熊本大学の中であなたが実践できることは何ですか。

- ・ 女性たちの交流
- ・ ポジティブに挑戦し、道を切り開いていく。
- ・ 若手女性の背中を押すこと！「がんばれ！」
- ・ 科研費への申請、ポジションへの公募に積極的に応募する。
- ・ 教育。学生の意識改革を促進させること。
- ・ 若い研究者、特に女性の活躍への支援。また活躍支援できる様な研究室の雰囲気作り。
- ・ 実体のある人的ネットワークの形成を考えたい。
- ・ 大学生に女性としての生き方、人としての生き方について考える機会をもたせること。
- ・ 楽しい雰囲気づくりの工夫。
- ・ 「ひるまない、ひがまない、ひっぱらない」を実践したいと思います。女性だから同じようにキャリアを積もうと頑張っている女性のサポートをしたい。
- ・ “前向きな覚悟をする”こと
- ・ 女性研究者に対する申請書やプレゼンのメンターを支援室がやってくれると確かに助かります。
- ・ カップル支援は熊大では必要かもしれません。

- ・ 理系中心のお話でしたが、文系に応用してこれからじっくり考えたいと思います。「前向きな覚悟」が大事という事を肝に命じております。
- ・ シニアとして若い先生方の支援に努めること。
- ・ 男性の協力なしでは男女共同参画はありえないという実感でした。
- ・ キャリア戦略としてのランチミーティングや勉強会を通じて、情報を得る。また、研究者の子供たちの集まりという企画は前向きの覚悟を決めた私たち自身、自分だけの問題でなく家族の問題であると改めて認識させられました。

3. 話し合いしました「女性研究者ロールモデル誌を通して」～キャリアパスの力とは～について自分はこんなことが必要であると思われることを書いてください。

- ・ フレンドリー的で親近感を感じました。実際に誌を読んで勉強になるのではないかと思います。
- ・ 必ずポストに行く信じ、推進する。ひるまないで。
- ・ 女性研究者自身の意識改革
- ・ 女性研究者パートナーの支援、介護にかかわる女性への支援。
- ・ 研究支援、補助者の派遣。
- ・ 子育て支援、ならびに子育て後研究を中断した人が復職することも支援すべきではないだろうか？介護に手を取られる方の支援も必要と思う。
- ・ 人件費削減のため、教員の負担が年々増えています。その中で仕事を継続していくためには「覚悟」が必要だと思いました。同時に一層の環境整備が必要であるとも感じます。
- ・ 何がしたいか、何が出来るか？何が求められているかを常に意識した生き方をしなければいけないと思いました。
- ・ 自分の力と選択を信じていくこと。
- ・ 「前向きな覚悟」です。時間に追われていて覚悟するヒマがありませんでした。PPT で出てきた「ひがまない」は「ひまがない」に見えてきました。ひがむ暇はないものですから。
- ・ 学生との意見交換の場
- ・ 特に理工地区では、女性教員が非常に少ないため個々が孤立しているのが現状です。メールネットワークなどを設立して気軽に相談できるシステムを作ってほしい。
- ・ こうでなくてはならないという枠組みを決めすぎず、自分らしいやり方、多様な進め方を見つけることが必要と感じています。

4. 本日の交換会は、働く女性達にとってネットワークが張れる「出会いの場」のひとつであると思っています。女性研究者等のロールモデルとして参考になったことがありましたか。先輩や仲間の発言でためになったと思われることがあったら挙げてください。

- ・ 特にこれとは言えませんが、全体的にためになりました。
- ・ 大変ためになった。勇気をもらった。
- ・ 先輩方が女性の地位向上へ積極的に取り組んでいるのがわかった。
- ・ すべて。励みになります。
- ・ 将来人口が減少する事が予測される中で女性の参加というのは必須であるということが分かった。このような活動は大変重要と認識した。
- ・ 若手研究者が任期制の中で子育てと研究を両立するのは困難なので支援が重要である。
- ・ 介護支援も今後取り入れて欲しいと思いました。交流会の開催、フランクな形のを望みます。
- ・ 理系と文系の違いが大きいことに驚いています。もっと情報交換の場が必要だと思いました。
- ・ ひるまない、ひがまない、ひっぱらないは全ての女性・男性に知ってほしい言葉だと思いました。小中高からのすり込みは本当に必要だと思いました。
- ・ 特に発言ではありませんが、他学部の現状を知れて良かったです。
- ・ 理系の方たちが大変でいらっしゃることがよくわかりました。しかし文系の人間は帰宅して家事

が終わってからまた研究です。24時間いつも追われている感はより強いかもしれません。

- ・ 有賀教授の講演だけでなく、他学科の方々の状況や考えを知ることが出来ました。
- ・ 次の世代の女性研究者を育成するためには、男女を問わず学生へメッセージを送り続ける必要があると痛感しました。
- ・ 男女共同参画について、学生への早期の問題意識の喚起

5. 熊本大学が3月26日に策定した「熊本大学男女共同参画推進基本計画」で掲げています項目の中で、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大を謳っています。掲げている数値目標に近づけるために、まず第1に推進したいところを挙げてください。

- ・ 女性研究者の採用目標への具体的なシステム化
- ・ 女性教員の増員
- ・ 有賀先生のご講演にもあったように数値にあまりこだわるよりも実質的な拡大を目指した方がよいのでは？教授の理解と協力が必要とも思います。
- ・ 多様な働き方を認める。(例えば、「ハーフタイム」の働き方など)
- ・ 女性理事をつくって欲しい!!
- ・ コーディネーターの存続
- ・ 子育て支援の充実が急務と思います。
- ・ PAを進める
- ・ 女性研究者の採用に力を入れて欲しい。
- ・ 意識改革のみではなく、現実的な不利益の解消として、北大が行っているように人件費を部局管理と全学運用分に分け、女性雇用する。全学運用分から補助するといったシステムを作り、適した人材を必要時に雇用できる。また女性雇用のメリットをたてる。

6. 意見交換会としては4回目になります。次回はどんなテーマでしたいですか。

- テーマ
- ・ 男女研究者の合同意見交換会(育休を取る!!)
 - ・ 子育て中の男性研究者交流会
 - ・ 女性研究者支援の具体的な取組み
 - ・ 任期制について
 - ・ 育児/介護に取組む男性研究者と女性研究者
 - ・ 男性教職員が考える男女共同参画
(女性教員だけで意見交換しても拡がらないから)
 - ・ 男性/女性を交えた「男女共同参画」についての意見交換会

7. その他、ご意見ご感想がありましたらお書きください。

- ・ 女性研究者に対する意識改革が少しずつ変わっていくような気がします、それは実践があっこそ出来るのだと感じました。
- ・ せっかくの「地域連携によるキャリアパス環境整備」の成果を大学内のみならず、地域の1つの取組みとして地域に還元できたらと思います。その1つの取組みとしてぜひ次年度から始まる教員免許更新講習のために学内保育施設(黒髪地区)の整備をお願いいたします。
- ・ 女性のみならず男性教員も参加する会が必要だと思います。
- ・ 「9時-5時の働き方」は可能か?(男性も、事務職員も)
- ・ 北大のように幅広い取組みができるとうれしいです。研究支援員や研究費支援をもっとバックアップしてほしいです。
- ・ 大学院の女子学生を交えた意見交換会を開いては?
- ・ 子育てを業績に関連付けて欲しくないです。男性と同じ土俵で勝負するために頑張ってきました。

ここでそれを砕かれたくありませんし、お子さんがいらっしゃらない方や未婚の方にも何か違和感があることだと思います。

- ・ 非常に有意義でした。
- ・ 現在、理工系では女性研究者のランチタイムミーティングをしていますが、もっと月に1回程度に回数を増やし、積極的に意見交換をする必要があると考えています。
- ・ 有期雇用5年時限の問題は深刻です。覚悟を決めても常勤職に限られる中、延期申請が可能なシステムの構築を希望します。

ご協力ありがとうございました。

担当：国立大学法人熊本大学 男女共同参画推進室

電話：ファックス 096-342-3281